

“絆”きずな

事業所リレーエッセイ パートII ゆずる

訪問リハビリ業務に携わって1年4か月になります。昨年は気仙沼市、今年は縁あって宮古市にある訪問リハビリステーションに勤務しています。臨床1年目から訪問業務に携わることに不安もありましたが、利用者様や事業所の先輩方の温かい言葉に励まされ、今の自分にできることは何かを日々模索しながら業務にあたっています。研修や勉強会、地域の同職種の集まり等により、横のつながりも増えました。気兼ねなく相談できる相手がいることにありがたさを感じています。

今年の4月、財団に新卒のOTが2名入職しました。私が周りの方々にしていただいたように、少しでも後輩たちの支えとなって、訪問リハビリのやりがいや作業療法の魅力を伝えていけたらと思います。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団

宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる 作業療法士

鏡水 思観

～南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」～

「訪問リハビリテーションで一番大事なことは？」と聞かれたら「“相手の価値観に入り込み”専門性を発揮する事」だと答えています。利用者さんやその周囲の方の気持ちや希望に寄り添い一緒に課題を解決してゆく中で“思いがけない充足感”を一緒に味わえる場面があります。それは利用者さんが病前の機能に近づくことだけではなく、病気になった心身であっても心から一緒に笑いあえる瞬間に訪れることが多いです。機能改善のみに価値を見出していた時期は自分の無力感に苛まされていましたが、訪問リハビリテーションを始めてから自分自身をリハビリ専門職として肯定できることが増えました。これからも利用者さんの自立支援を目指し一回でも多く笑いあえる瞬間を共有できるように、よりよい訪問リハビリテーションを進めてゆきたいと思っています。

静岡県訪問リハ・地域リーダー 言語聴覚士

不破本 純子

ケアル訪問看護リハビリステーション

原稿募集のおしらせ

一般社団法人 訪問リハビリテーション振興財団では、平成25年12月より訪問リハビリテーション振興財団の活動、行政トピックス、復興特区訪問リハ・ステーションの紹介などの情報を3士協会に発信していくことを目的とした、訪問リハビリテーション通信“絆”を発行しております。

今回は“絆”を読んで頂いている方から原稿を募集します。「利用者様の声を載せて欲しい」・「訪問リハビリ実施上、こんな工夫アイテムがある」・「各県におけるリハビリテーション関連の取組紹介」など、全国各地の活動を“絆”で紹介してみませんか。

- ・お名前
- ・ご勤務先
- ・所属士会 職種
- ・連絡先メールアドレス
- ・連絡先電話番号

・内容・・・題名、文字数300～350

原稿送り先：一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 事務局 横山紀子
〒108-0023東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィング6F
TEL03-6453-7370 FAX03-5766-5177
Email:yokoyama@hvrpf.jp

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 組織化班